

2015「東京宣言」 1周年記念国際シンポジウムが盛大に開催

国際的な医療・介護分野の主な先立達が、結集へ

『医療・介護を通じて国際貢献、交流は可能か』（主催：「医療・介護の安全保障を推進する民間会議」）の1周年記念国際シンポジウムが5月10日、東京・文京区の東京医科歯科大学鈴木章夫記念講堂で100人以上の参加者を集めて、盛大に開催された。

同会議は、「東南アジア諸国との国際交流を深め、軍事力の強化ではなく、医療と介護の安全保障を築いて国際貢献する」という趣旨の水巻中正・国際医療福祉大大学院教授を中心とする我が国における医療・介護における中心的な役割を持つ、民間のメンバーが集まっている。

1年前の昨年の5月に、武久洋三・日本慢性期医療協会会長が最初に特別講演を行い、聖路加国際病院の福井次矢院長がまとめの講演をする、などの「医療・介護の安全保障を推進する民間会議～国際交流、友好をめざす集い～」を同講堂にて盛大に開催して注目を浴びた。なお介護分野からは、時田純・高齢者総合福祉施設（福）潤生園理事長なども参加した。

そして最後に日本の医療、介護のノウハウ、モデルなどを海外に発信する、人材育成、支援に努めるなど3項目の「東京宣言」を湖山康成・湖山医療福祉グループ代表が読み上げた。

1周年を迎えた今回は、水巻中正・同大学大学院教授が、『東京宣言』の精神を受け継ぎ、さらに国際交流を深めるために、「東京宣言の意義と国際貢献」をテーマに基調講演を行った。

その後、韓国の現状を南商堯・韓国柳韓大学教授が「韓国の医療・介護の現状と国際交流」をテーマに講演。続いてインドの現状を布施達朗・セコム医療システム社長が「セコムの医療事業における国際展開の意味」テーマに講演した。

その後の国際シンポジウムでは、『アジアにおける医療福祉の交流を考える』をテーマに伊東洋・元東京医大理事長とジャーナリストの小川陽子氏が座長を務め、パネラーとして南商堯氏、布施達朗氏の外、中国から



基調講演をする水巻中正教授

は賽序波・首都医科大学客員教授が、マレーシアからはキーフ・日本アジアクロス代表が、タイからはナッタデット・IUHW 奨学生がそれぞれ発言した。なお、日本からは渡邊昌・生命科学振興会理事長が発言した。

最後に閉会の辞を湖山泰成・湖山医療福祉グループ代表が務め、友好の輪を広げて国際貢献することを決議して成功裏のうちに修了した。

「民間会議」は民間人で構成している。現在、会員（賛同者を含む）の登録を受け付けている。

会議の維持・運営、活動費は会員の会費、寄付金で賄っている。会費、寄付金の規定は以下のとおり。

●会費：個人年 5,000 円（学生は 1,000 円、大学院生は 2,000 円）
団体年 30,000 円

●寄付金：1,000 円（1 口）以上

●会費、寄付金の振込先・銀行口座：

銀行・支店名：三菱東京UFJ銀行 阿佐ヶ谷支店（店番：156）

口座名：医療・介護の安全保障を推進する民間会議

口座番号：（普通）0156015